

Strix 9:213-217 (1990)

アメリカコハクチョウとコハクチョウのつがいおよび家族群の連続越冬記録

村瀬美江<sup>1</sup>

岩手県北上市の新堤に5シーズン連続渡来している通称「クロチャン」と呼ばれるアメリカコハクチョウは、通称「カアサン」と呼ばれるコハクチョウとつがいになり、最近3年間は毎年幼鳥をともなって同地点に渡来し越冬している(表1)。この珍しい事例である「クロチャン」家族群の渡来状況を簡単に報告する。個体の同定はスライドおよびビデオ映像による照合を中心として行なった。

観察場所

1. 新堤: 新堤は岩手県北上市相去町高前楢23番地に位置する、東西約240m、南北約170mの農業用水池で、水深は0.5mから3mである。食物となる数種の水生植物が自生し、水生昆虫や小魚も生息する。冬季は凍結防止ポンプがまわり、ハクチョウの滞在には一応適した環境と考えられる。
2. 北上川: 市内を流れる北上川にかかる珊瑚橋から下流東岸の約500mがハクチョウ類の滞在地点で、橋から約300mがオオハクチョウ、その下流約200mがコハクチョウとおおよそすみわけている。なお、北上川は新堤より直線距離で約4kmである。

渡来の状況

1. 1985.10-1986.5

「クロチャン」は、1986年3月18日に新堤で初認された。日本野鳥の会北上支部の伊藤忠美氏が第1発見者である。このシーズンは北帰途中の立ち寄りのためか、ほかのハクチョウ類からはよそ者あつかいで、単独行動が目立った。1986年4月17日に新堤より飛去し、30日の滞在であった。

2. 1986.10-1987.5

1986年10月23日に「クロチャン」は、新堤にすでに先着していた2羽のオオハクチョウに続く第2陣として、コハクチョウ3羽と同行し飛来した。この同行コハクチョウのうちの1羽がのちに「カアサン」と名づけられた。「カアサン」は嘴峰の模様にきわだった特徴をもつ三上1型(ダーキー)のコハクチョウであった。

シーズン後半には、「クロチャン」と「カアサン」の求愛行動がしばしば観察された。1987年4月15日に「クロチャン」と「カアサン」は、ほかのハクチョウとともに新堤より飛去した。滞在期間は174日であった。

3. 1987.10-1988.5

1987年10月23日の午前8時に、「クロチャン」と「カアサン」は2羽の幼鳥を同伴した家族となって、このシーズンの第1陣として新堤に飛来し着水が確認された(図1)。亜種間雑種の2羽の幼鳥は「ブイ」、「ヤマ」と命名された。家族単位での行動が顕著で、4羽が散開することはもちろん「ク

1990年10月10日受理

1. 〒024 北上市常盤台2-2-17



図1. 第1回子連れ渡来(前面4羽).

Fig. 1. First visit of the family.



図2. 第2回子連れ渡来(前面6羽).

Fig. 2. Second visit of the family.

ロチャン」か「カアサン」のいずれかが離れることもほとんどみられなかった。このシーズンから新堤と北上川の往復が目立った。

シーズンはじめの飛来当初は、くちばしの下部を除いてほとんど桃色であった幼鳥の嘴峰色は、春の北帰間近いころには、亜成鳥の嘴峰色を十分推定できる程度に嘴峰の黒色部と黄色斑が明確となり、2羽の幼鳥はともに一見アメリカコハクチョウと区別できないようになった。1988年4月15日の午前5時30分に「クロチャン」家族群は、ほかのハクチョウとともに新堤より飛去した。滞在期間は175日であった。

#### 4. 1988.10-1989.5

1988年10月23日の午前6時30分に、先着のコハクチョウ2羽に続く第2陣として、「クロチャン」

と「カアサン」は4羽の幼鳥を同伴して新堤に飛来し着水が確認された(図2)。

亜種間雑種の幼鳥4羽は、それぞれ「オジサン」、「ニタ」、「キボッチ」、「ナガレ」と命名された。なお、12月には「ヤマ」が若鳥となって飛来した。再飛来した「ヤマ」は「クロチャン」家族といっしょに行動しているケースが多かった。しかし、あまり近づきすぎると親鳥に追われることもしばしば観察され、単独で行動している場合もみられた。

シーズン後半には家族の個体間の距離が広がり、親鳥が幼鳥から離れていることもあった。3月下旬には、「オジサン」が釣り針を飲みこんだため採食できなくなり、4月3日以降は行方不明となった。1989年4月5日の午後6時5分に、「クロチャン」、「カアサン」、「ニタ」、「キボッチ」、「ナガレ」と「ヤマ」の群れはほかのハクチョウとともに北上川より飛去した。「クロチャン」家族群の滞在期間は165日、「ヤマ」の滞在期間は116日であった。

#### 5. 1989.10-1990.5

このシーズンの「クロチャン」一族の飛来はやや遅く、まず、昨シーズンの幼鳥のうち「キボッチ」と「ナガレ」の2羽が若鳥となって、1989年11月2日の午前7時20分に新堤に飛来した。ついで11月16日に「ニタ」が飛来し、前年の幼鳥がすべてそろった。この時点で、すでに新堤にはオオハクチョウ、コハクチョウあわせて137羽が先着していた。12月8日には「クロチャン」と「カアサン」が、1羽の幼鳥をともなって新堤に飛来した(図3)。この時の新堤のハクチョウ類は160羽であった。新しい「クロチャン」家族は、飛来2日後の12月10日に北上川のコハクチョウ定住域に移った。その時点では一家は先着であった。

12月13日の早朝には、「ヤマ」が北上川に飛来し、昨シーズンに飛去した「クロチャン」の家族群は新たに幼鳥1羽を加えてすべてそろった。この亜種間雑種の幼鳥は「ゲン」と命名された。「クロチャン」、「カアサン」と「ゲン」の家族はほとんど同一行動をとっていた。「ヤマ」はこの3羽と常に寄り添って行動し、とくに「ゲン」をガードするように並んでいるのがよくみられた。親鳥に追われる様子はまったくなかった。「キボッチ」と「ナガレ」は、ほとんどの行動をともしながらかなりの期間を新堤で過ごし、北上川ではわずかな期間しか滞在しなかった。「クロチャン」家族はこの



図3. 第3回子連れ渡来(前方3羽)。

Fig. 3. Third visit of the family.

表1. 「クロチャン」家族群の渡来状況.

Table 1. Wintering records of "Kuro-chan" family.

(1990年5月現在)

期間 愛称	1985. 10 ~1986. 5	1986. 10 ~1987. 5	1987. 10 ~1988. 5	1988. 10 ~1989. 5	1989. 10 ~1990. 5
「クロチャン」	3/18~4/17 (亜成鳥)	10/23~4/15 (成鳥)	10/23~4/15	10/23~4/5	12/8~4/10
「カアサン」		10/23~4/15 (成鳥)	10/23~4/15	10/23~4/5	12/8~4/10
「ブイ」			10/23~4/15 (幼鳥)	行方不明	
「ヤマ」			10/23~4/15 (幼鳥)	12/20~4/5 (若鳥)	12/13~4/10 (亜成鳥)
「オジサン」				10/23~4/3 (幼鳥)	行方不明
「ニタ」				10/23~4/5 (幼鳥)	11/16~2/11 (若鳥)
「キボッチ」				10/23~4/5 (幼鳥)	11/2~3/2 (若鳥)
「ナガレ」				10/23~4/5 (幼鳥)	11/2~3/2 (若鳥)
「ゲン」					12/8~4/10 (幼鳥)

(注)

「クロチャン」: アメリカコハクチョウ  
「カアサン」: コハクチョウ

「ブイ」  
「ヤマ」  
「オジサン」  
「ニタ」  
「キボッチ」  
「ナガレ」  
「ゲン」

: 亜種間の雑種

2羽と逆であったので、近接して行動しているのはたまにみられる程度であった。「ニタ」はさらに単独行動が目立ち、ごくまれにしか家族群との接触はみられなかった。

例年と異なり、このシーズンは家族群が3回に別れて飛去した。まず、「ニタ」が1990年2月11日に新堤で観察されたのを最後に飛去し、ついで「キボッチ」と「ナガレ」が3月2日の観察を最後に新堤から飛去した。最後に、4月10日の早朝に「クロチャン」、「カアサン」、「ゲン」と「ヤマ」の4羽が新堤から飛去した。したがって滞在期間は「ニタ」が87日、「キボッチ」と「ナガレ」が120日、「クロチャン」と「カアサン」、「ゲン」が122日、「ヤマ」が118日であった。

### 要約

「クロチャン」家族の渡来状況について、記録的興味のあるものを要約すると、

1. アメリカコハクチョウである「クロチャン」が5シーズン連続して同一地点に渡来した。
2. アメリカコハクチョウがコハクチョウとつがいとなり、3年間続いて亜種間雑種の幼鳥をともなっで渡来した。

従来、コハクチョウのつがいなどが連続して飛来した例はしばしば報告されていたが(林 1982)、アメリカコハクチョウとコハクチョウとのつがいや亜種間雑種に関する報文は少なく(松井 1988, 八木 1988)、とくに親鳥が毎年幼鳥をともなっで飛来し、越冬した例は珍しい。

## 引用文献

- 林俊男. 1982. 諏訪湖に飛来のコハクチョウ (*Cygnus columbianus jankowskii*) の bill pattern による個体識別について. 鳥 31 : 1-16.
- Mary, E. Evans & William, J. L. Sladen. 1980. A comparative analysis of the bill markings of Whistling and Bewick's swans and out-of-range occurrences of the two taxa. Auk 97 : 697-703.
- 松井繁. 1988. 先シーズン国内で観察されたアメリカコハクチョウについて. 日本の白鳥 (14) : 91.
- 八木博. 1988. 高野池のアメリカコハクチョウについて. 日本の白鳥 (14) : 94.
- 八木博. 1988. アメコモドキについて. 日本の白鳥 (14) : 96.

Wintering records of a "crossed" pair of Bewick's and Whistling Swans,  
*Cygnus columbianus bewikii* and *C. columbianus columbianus* in Kitakami, Iwate.

Yoshie Murase<sup>1</sup>

A "crossed" pair of Bewick's and Whistling Swans has been coming since 1987 to the same place (Kitakami-shi, Iwate Pref., Japan). They visited with their offspring annually for three successive years, bringing two juveniles in 1987, four juveniles in 1988 and one juvenile in 1989. The Whistling Swan, named Kuro-chan, was observed at the same place during five continuous winters.

1. 2-2-17 Tokiwadai, Kitakami-shi, Iwate 024